

学力調査を活用した 区の取り組み

区では、学力調査結果等から見えた個々の学習状況の把握と分析に基づき、教員の「授業力向上」による『わかる授業・魅力ある授業』の実現と、きめ細かい学習指導でつまずきを解消する「個に応じた学習の充実」に取り組んでいる。加えて、小学校外国語活動・外国語科、中学校英語科における4技能（聞く、読む、話す、書く）育成等のため、「英語教育の推進」に取り組んでいる。

1 調査結果の分析【S P表（※）】



教科ごとの児童・生徒の正答・誤答状況を学年別、学級別に一覧で出力し、そこから個々の理解度や全体の誤答の傾向を把握する。指導上の課題を洗い出すことで授業改善に生かすとともに、補充学習等で個のつまずきに対応している。

※ S P 表

学年、学級単位で、縦と横がそれぞれ児童・生徒 (S : Student) と設問 (P : Problem) の正答数の多い順に並べ替えた表の中に、S 曲線と P 曲線を書き入れたもの。これを活用することで、平均正答率だけでは把握できない全体の課題や傾向、個々の児童・生徒が理解していない可能性が高い設問を見つけ出すことができる。

- ① S曲線は太破線、P曲線は二重線で表している。
 - ② S曲線は、個人の正答数を左から数えた位置に線を、P曲線は、問題ごとに正答できた児童・生徒の数を上から数えた位置に線を引いている。